9

山の動く日きたる、かく云へど、人これを信ぜじ

（詩碑）

山の動く日

山の動く日きたる、
かく云へど、人これを信ぜじ。
山はしばらく眠りしのみ、
その昔、彼等みな火に燃えて動きしを。
されど、そは信ぜずともよし、
人よ、ああ、唯だこれを信ぜよ、
すべて眠りし女、
今ぞ目覚めて動くなる。

詩意

晶子が長い間待ち望んでいた多くの女性たちの目覚めを火山にたとえている。今まで眠っていた女性たちが今ようやく動きだしました。きっと女性たちは自立し動き始めるでしょう。

掲載歌集　『夏より秋へ』大正3（1914）年1月
初　　出　「青鞜」創刊号　明治44（1911）年9月
「そぞろごと」の題で発表（晶子33歳）

・所 在 地　香ヶ丘リベルテ高等学校正門前（堺区浅香山町１丁２－20）
　　ＪＲ阪和線浅香駅を西へ徒歩５分
　　南海高野線浅香山駅を東へ徒歩12分
・建　　立　昭和62年４月７日　晶子をうたう会
・デザイン　富村俊造
・連 絡 先　堺女子短期大学　072-227-8814

昭和61（1986）年5月、ノルウェーで閣僚18人中、8人が女性で占めることになった時、「晶子の夢がノルウェーに実った」と感動した富村俊造氏がノルウェー政府に働きかけノルウェー語と日本語で「山の動く日」の詩を刻んだ記念碑を作ることになった。碑の裏面には、八人の女性閣僚の名が刻まれている。除幕式には駐日ノルウェー大使も出席し、「山の動く日」が合唱された。〈ノルウェー語訳は59頁参照〉

この詩は明治44年、女性解放をめざした雑誌「青鞜」の創刊号に晶子が寄せた「そぞろごと」の一部である。

山の動く日の会の代表富村俊造氏が、1986年8月、この碑の拓本をもってノルウェーを訪ねる「平和と女性解放の旅」が実施された。

1992年7月、ノルウェー政府の男女平等審議会20周年記念と晶子没後50年記念として、この碑のレプリカを贈る「ノルウェー紀行」が実施された。

1994年7月、京都市男女共同参画センター（ウィングス京都）開館を記念して「山の動く日」の詩碑が建立された。